

1

問1【解答例】

ヒューマニズムの人間観は、人の生命のかけがえのなさや密接に関わり、一度きりの人生が個人に尊厳と人権を付与し、それゆえ個人にこころの内奥の感情をみとめる。それは近代社会の基礎をなす。神や仏などを裏付けとしないが、科学的に実証された真理ではない。新しい人間観は、新たなテクノロジーによって形成されたもので、人間自身をアルゴリズムとデータの流れとしてとらえるものである。この人間観は、人の感覚、情動、欲望もそうした流れとして捉え、近代社会の基礎となってきた人間観をゆさぶる。

問2【出題意図と採点講評】

課題文を踏まえて、自身の見解を述べる問題である。

課題文では、「人の存在をアルゴリズムとデータの流れ」とする見方(新たな人間観)と、そうではない見方(ヒューマニズムの人間観)、それぞれが説明されている。問1でその内容(前者から後者への「転換」)をまとめることとなるので、問2ではそれを踏まえて論じていくことが必要である。

論述テーマは「新たな人間観」の受け入れの可否である。受け入れ可能という立場から論じて、反対の立場から論じてよいし、さらには賛否を超えた議論でもよいが、いずれの場合でも筆者の主張を踏まえることが重要であり、課題文を無視して勝手なことを述べても評価されない。他方、自分の考えを論じることが求められており、課題文の内容を要約しただけの答案も評価されない。それぞれの人間観の内容は問1の解答例の通りだが、ヒューマニズムの人間観が近代社会の基礎をなしてきたということ、それが新しいテクノロジーに基づく人間観によって揺さぶられていることは、ぜひ押さえておきたい論点である。

なお、本問では論述に際して具体例を挙げることを求められていた。課題文中に示されていた具体例を用いて自分なりの分析をすることも可能だが、独自の事例を提示して、筆者の主張を裏付けたり批判的に検証したりしてもよい。使えそうな具体例としては、スマートフォン、タブレット、パソコンなどの利用、インターネットのアクセス履歴、Webサイトや電子書籍の閲覧記録、SNSでの投稿・閲覧、クレジットカードやスマートフォンを用いた買い物の支払い記録、交通機関の利用、防犯カメラの画像記録、スマートフォンを通じて伝わる位置情報や移動記録、健康診断、病院の通院カルテ、こころの健康診断など多岐に渡る。

答案で多かったのは、医療データなどを例に挙げつつ、現実に私たちの存在がデータとアルゴリズムの集積となることで、社会の効率化が図られ暮らしが便利になるという論述や、逆にそうした現実を受け入れがたいとし自らの体験に基づきながら批判する論述であるが、受け入れの賛否にとどまらず、その先へ議論を進めようとした答案の中には、高く評価されたものがあった。例えば、ボーカロイドを例に挙げて、新しい人間観とヒューマニズムの人間観の融合を説いたものや、マッチングアプリを例に挙げて、データ化されながらもデータ化しきれない人間のあり方を丁寧に論じたものなどである。逆に、課題文を十分に理解しないまま自分なりのヒューマニズムについて論じたり、人間のデータ化・アルゴリズム化とは関わりのない技術の発達について論じた答案の評価は低かった。

2

問1(1)【解答例】

図1の右のグラフにも示されているように、新興国では、若い世代ほど人口が多いため、年金を受け取る人数が年々増加していく。そのため、国家予算から年金への支出が、毎年増加するので、国の財政収支、すなわち公的貯蓄は減少していくからである。

問1(2)【解答例】

年金受給者に対して多くの年金を支給するほど、公的貯蓄は減少していくことになるため。また、退職後に多くの年金をもらえることがわかっていると、現役で働いている時には、将来に備えて貯蓄をしようとする動機が減少してしまうことになるから。

問2【出題意図と採点講評】

文章(英文)の読解力と図表の読み取りの能力、および説明、論述の能力を問う問題である。

本問では、課題文で示されている改革案は、年金支給の引き下げ(受給額の引き下げや受給年齢の繰上げ)と、現役世代における貯蓄の促進(確定拠出年金による個人の貯蓄の増加)の2種類であることを把握できていることが前提とされている。その上で、前者は、年金受給者の不満を増加させ、とくに個人貯蓄が十分でない世代に対して支給を引き下げると、より強い不満が生じるだろうこと。後者を早くから導入することで、前者から生じる不満を減少させられると考えられること。この両者の関係性に着目した解答を評価する。

なお本問は、「本文で紹介されている複数の年金改革案について、それらが相互に与える影響を考慮しながら、どのように進めれば良いか」という問いを立てているので、「財政破綻しても年金を多く支出すべき」など、「年金改革を進めるべきではない」という解答では高い評価とはならない。

英語で書かれた文書や図表から要点を抽出し、さらに論理的な推論と思考を積み重ねて、新しい結論を導くこと—これは、実務と学術のいずれの世界においても必須の素養である。本問の解答においても、読解力と思考力の組み合わせが求められていた。そもそも、課題文から要点を抽出することができていない答案も少なからず見られたものの、要点を的確に理解した上で論理的に推論を積み重ね、さらに自らの推論を明瞭な日本語で表現した、優れた答案も多かった。中程度の得点が最も多かったが、高得点から低得点まで、広い範囲でまんべんなく分散していた。